

屋根から雨漏りしたら焦ってしまいますよね。

雨漏りは家にとって深刻な問題であり、その原因と対策はさまざまです。

この記事では、雨漏りのおもな原因や自分でできる応急処置の方法、日頃から自分でできる対策、専門業者による修理の必要性をご説明します。

この情報をもとに、雨漏りから住まいを守るための一歩を踏み出しましょう。

雨漏りの原因

雨漏りの原因は大半の人が屋根であると思うでしょうが、実は雨漏りの原因となる要素はさまざまです。

雨漏りの原因は、おもに次の5つです。

1. 屋根の破損
2. 窓サッシ 天窓
3. ベランダやバルコニーのヒビ
4. 外壁のヒビ
5. 給排水管の隙間

詳しく見ていきましょう。

1. 屋根の破損

屋根の破損は、雨漏りの最も一般的な原因です。

特に、台風や大雨後に屋根の破損による雨漏りが増加する傾向があります。

瓦のずれや屋根材の劣化、穴やヒビ割れがおもな原因です。

2. 窓サッシ 天窓

窓サッシや天窓のシーリング材の劣化、ヒビ割れも雨漏りの原因となります。

特に古い建物では、経年劣化によりシーリングのヒビ割れや縮みにより、隙間ができます。

その隙間から雨水が入り、水漏れが発生するのです。

3. ベランダやバルコニーのヒビ

ベランダやバルコニーの防水層にヒビが入ると、そこから水が浸透し室内に雨漏りを引き起こすことがあります。

また、目には見えない中の配管の破損が原因のケースもあり、ベランダやバルコニーが発生箇所の雨漏りは原因を突き止めにくいです。

4. 外壁のヒビ

外壁のヒビや隙間から、雨漏りするケースがあります。

地震や建物の老朽化がおもな原因と考えられています。

小さなヒビでも内側は大きくヒビ割れているということがあるので、一般の人では見分けにくい箇所です。

5.給排水管の隙間

給排水管は外壁と防水シートを貫通しているため、その隙間から雨漏りする場合があります。

このように、雨漏りにはさまざまな原因が考えられます。

一般の人には見分けがつかないものも多いため、プロの専門業者に見てもらうのをおすすめします。

雨漏りでない可能性がある

住宅から水が漏れる原因は、雨漏りに限定されるものではありません。

他に考えられる原因としては、漏水と結露があります。

漏水とは、水道管や給排水設備などの内部から水が漏れ出る現象を指します。

これは、配管のヒビ割れや接続部の緩み、配管の腐食や老朽化などが原因であるケースが多いです。

また、実のところ結露は、雨漏りと勘違いされることがあります。

外気と室内の温度差が大きい時に、窓ガラスや壁面に水滴が発生し、特に冬の時期に多く発生しますが、断熱材の不足や換気の悪さも結露を引き起こす原因と考えられています。

一般の人では、雨漏りと漏水や結露の違いを判断するのは容易ではありません。

適切な処置のために、専門業者に相談するのをおすすめします。

雨漏りしたときの応急処置

雨漏りしているのを見つけたら、そのまま放置してしまうのは危険です。

雨漏りして水の落ちた箇所までも腐食してしまったり、カビが繁殖したりする原因にもなります。

ここでは、自分でできる応急処置の方法を3つご紹介します。

- ・床が濡れないようバケツや布で防ぐ
- ・カバーをして雨の進入を防ぐ
- ・雨漏りの箇所を撮影する

一つずつ確認していきましょう。

床が濡れないようバケツや布で防ぐ

雨漏りによる床の腐食やカビの繁殖を抑えるため、床が濡れないようバケツや布で防いでください。

また、水が家財に当たってしまう場合は破損を防ぐため、家具を移動させるのも良いでしょう。

カバーをして雨の進入を防ぐ

雨漏りの発生箇所が明確に分かれれば、防水シートでカバーして雨の侵入を防ぎましょう。
ただし、屋根の上は危険なため登らないでください。
屋根へ登るには、専門的な知識や準備が必要になるためです。

雨漏りの箇所を撮影する

雨漏りの発生箇所を撮影し、修理業者に見せることでより迅速かつ適切な修理が行えます。
正確な情報を提示するためだけでなく、保険申請の際の証拠としても役立つため撮影をするのを
おすすめします。

このように、雨漏りした時は放置せず、早めに応急処置を施すことで2次被害を防げます。

<以上、記事前半>